



善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
TEL:0593-31-1670
TEL:0593-32-0733

掲示板法話

この世の苦悩も 皆お育てと

転じられる「俱会一処」の世界がある



過日、大阪近郊のお寺の坊守さんが急逝されたとのことで、葬儀にお参りさせて頂きました。まず、門徒総代さんの弔辞で、思いがけない、突然の別れであったことを知ったのですが、喪主であるA先生は、「我々夫婦の最後の会話は『早う、風呂に入れ』だった。もつと早く見つけてやればよかったと悔やまれるが、これも娑婆の繰り言に過ぎません。ただ、話し相手がなくなったのが寂しいね」と淡々とご挨拶されました。先生の息子さんとは十数年前幼い男の子を残して早く亡くなられていますので一層、老境の先生の寂しさはいかばかりか、と思われまます。

だが、葬儀が終わわり、出棺のとき、故人が好きだったという理由で、山口百恵さんの歌った「いい日旅立ち」の曲が流されたのは驚きでした。出棺時のBG Mは浄土真宗の場合、追悼歌「みほとけに抱かれて」が定番ですから、見事なサプライズと言うべきでしょう。更に、会葬者に配られた「会葬御礼」葉書もまた、ありきたりの文面とは全く異質なもので、深い感銘とお導きを頂きました。

「南無阿弥陀仏」

「門徒の皆様、有縁の皆様
A寺坊守として多くのお育てを賜りまして誠にありがとうございました。
この世に生を受けて七十七年多くのおみのりのお育てをいただき、ありがたいことでした。
私こと突如入浴中に息絶えました。
安らかな気持ちでございます。
あとのこと、A寺のこと、すべておまかせ申し上げます。
何卒よろしくお願い申し上げます。
弥陀のお浄土でお先にお待ち申し上げます。
俱会一処(くえいつしよ)、ただ念仏して」
もちろん故人になり代わって、A先生がしたためられた文章に違いありません。しかし、生死無常、すなわち生まれ限り命終わるときが来るのは必然であり、今日とも知らず明日とも知らずのお互いです。息子さんから託されたお孫さんの成人、後継まで見届けたいという思いは格別のものがあるうと思われるけれど、「遅かれ早かれ、俱会一処(くえいつしよ)、共に一つのお浄土で会うことのできる御同朋(仏)に成るお

☆行事ご案内☆

◇臨時門信徒総会

7月21日(日)午後7時半

※3年後(平成28年5月1日)のご法要に向けての話し合い
6月末までに案内状を行事さんにお配りします。
後日参加の出欠表を回収します。
欠席の方には委任状をお願いします。ご協力よろしく!

◇キッズサンガ

7月6日(土)午後4時より『集い』、ゲーム等

新しいお友達もぜひどうぞ。毎日5時の鐘つき誰でも可

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。トップページの左欄「善正寺だより」をクリック、ファイルを開くと1年分の寺報が見られます。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が大好評。

開設4年11ヶ月で11万2千訪問、一日平均100程、コメント大歓迎、一面お問い合わせ欄よりのメールや悩み相談には即返信します

◇『一縁会テレホン法話』059・354・1454へ

お電話を!5人の僧侶が週替わりで担当、3分間で法話が聞けます

三重組コーラス 7/2(火)名古屋別院音楽祭バスにて参加

『花は咲く』他 後の西勝寺様での練習日は決まり次第連絡

三重組十三日講(宏林晃信先生)7月3日午前午後蓮光寺様

※親鸞聖人750回大遠忌法要が平成28年5月1日に決ま!

※来年4月19日午後『初参式』を受ける赤ちゃん、幼児を大募集

※百五銀行阿倉川支店ロビー展、10月1か月、『第3回善正寺門信徒展』依頼、作品大募集!写真、絵、書、陶芸他、何でも結構

仲間だ」という温かさ、たのもしさが伝わってきます。
お念仏と共に、お浄土の門が開かれているからこそ、「思うようにならぬこの世の憂きことも苦勞も皆、お育てであつた」と転じられる柔軟な生き方と別れができるようになるのだと思えます。正直言えば、義理での会葬ながら、得難い教えを蒙った感動が心に深く染み入りました。葬儀が形式的だと批判も聞こえる今日、「仏教徒はこうでなくちゃ」と自ら言い聞かせたことでした。

写真アラカルト

和製マザーテレサのような坊守さん、鐘つきの親子、孫の笑顔から慶びをもらって!



坊守スケッチ

『女は度胸』私の葬儀デビュー



女性の社会進出が当たり前の時代、働く女性は珍しくない。お寺でも、女性の僧侶や布教使として住職が、活躍されている。私は25年前に得度、その後教師資格(住職になる資格)を取得。先代住職が亡くなり、兼業している現住職を助けるためだった。しかし二人の息子が成人してからは、「母親が出しやばると息子が育たない」と思い、僧衣姿になることは極力避けてきた。本音は恥ずかしいのと自信がなかっただけ。だから20年前に資格だけは取ったものの、いわばペーパードライバー。過去2、3度住職の伴僧をしたことはあったが、自分一人で葬儀の導師を勤めたことはなかった。先日葬儀社の紹介で、葬儀を頼まれた。あいにく住職と二人の息子は、断れない予定がぎっしり。突然私に白羽の矢！ペーパードライバーが、急に高速道路をぶっ飛ばせというようなもの。お通夜は住職が勤めるが、葬儀は私一人で勤めなければならぬ。前日と翌朝の4時半から導師のための猛特訓を住職から受けた。七條袈裟を着けるのも勿論初めて。携帯カメラに撮って、忘れた時の予防策。お経の読み方や手順は、メモをお経本の間挟み込み、何度も繰り返し練習。当日は開始予定1時間も前に会場に到着。僧侶控室は1室しかなく、別の2会場の男

性ベテラン僧侶3人と相部屋になった。「今日は私の葬儀導師デビューの日です。背中に沢山初心者マークをつけてきました。心臓が破裂しそうです。どうかよろしくお願いします」と挨拶。ある老僧が「ワシなんか何百回と葬儀勤めたけれど、いつも間違えたらあかんと緊張したものだ。あんた、初めてで女やれどええ度胸しとるなあ。ワツハッハー。」「ええ、私も『女は度胸』と言われるよりも『女は愛嬌』と言われるのですが、仕方ありません。精一杯勤めます」私が今回大胆な決意をしたのには訳があった。数日前山口県の友人(元坊守)が運営する社会福祉法人創立二十周年記念式典に招かれた。過疎地の寺に平成の初め、いち早く老人と幼児が集う施設に注目し、ゼロからの出発をした。現在は老人福祉、障害者福祉、児童福祉など14の施設運営のエキスパートとして活躍している。どの施設にも阿弥陀様が安置されて、入居者と三〇人の全職員が法話を聞く機会を持つ。彼女の真骨頂は「困っている人がいればその人の為に働く。自分を必要とされる人の為に骨身を惜しまない。何事もめぐり合わせと思つてやってみることよ！」と熱く私に語りかけた。彼女の一言が背中を押して、今回の葬儀導師デビューという無謀な行動に出た。

故人は私より一歳年上で、誕生日も一日違い。不思議な縁を感じて、初七日法要後はお説教までした。しかし我が家の男性陣よ、これに味を占めて私に葬儀を任せるなかれ。「これつきり、もう、これつきりですな」と願っていた。

☆寄稿

四日市市 川崎孝一
 ☆たかが掃除 されど掃除に
 馴染みきて ひと日ひと掃き
 朝の幸せ

☆『新・仏事のイロハ』 著者の末本 師 説く法話後の 齋「いろは鮪」
 ☆宙吊りの 電子ペーパー出現に
 電車の旅も 乙なことかも

☆7月21日(日)夜7時半「臨時門信徒総会」が開催。3年後の5月1日のご法要に向けての話し合いです。出欠表を回収しますので、欠席の方には委任状をお願いします。

☆善正寺の親鸞聖人七五〇回大遠忌法要が平成二十八年五月一日(日)に決定！三年間の月日があります。皆様方のご協力よろしく願います。

☆来年(平成26年)4月19日(土)午後初参式を受ける赤ちゃん、幼児を大募集！三全仏婦主催。会費千円。どうかお知り合いの方をお誘い下さい。

☆5月20・21日住職と坊守は、山口県の社会福祉法人『同朋会』創立20周年記念祝賀会に招待され出張。貴重な二日間の出会いがありました。

☆百五銀行阿倉川支店で十月一か月

間『第三回善正寺門信徒展』開催の依頼。展示作品を大募集！写真、絵、書、陶芸何でも結構です。
 ☆善正寺のホームページ「三重 善正寺」で検索可。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が好評。開設4年11カ月で11万2千訪問。毎日平均100訪問。悩み相談、コメント大歓迎。
 ☆カンパ有難う☆
 関崎敦子様、阿曾香代子様、矢田たず様・F様より切手や御志頂戴しました。ありがとうございます。感謝！
 お悔やみ申し上げます
 ☆小林美代子様(5月22日・64歳 四日市市) 合掌
 【平成25年度今後の善正寺行事予定】
 ※8月24(土)・25(日)『秋季永代経』講師足利孝之師(尼崎)
 ※9月22(日)午前・午後『小杉町仏教会追悼法要』講師鎌田宗雲師(滋賀)
 ※11月2(日)午後・夜・3(日)午前『報恩講』講師藤大慶師(京都府)
 ※11月23(日)午前秋勧進
 ※12月7(日)夜『お内仏報恩講』
 ※12月31(日)夜11時45分除夜の鐘
 ◇その他、毎月第3日曜日夜7時半より『門信徒例会』
 ☆ 編集子より ☆
 「善正寺だより」第235号をお届けします。◇空梅雨、水不足を嘆く声あり、時には豪雨に泣く。実に人間のモノサシは自己中心！◇政治もマスコミも言われぬ視点からの見直し、これが仏法のモノサシ。厳しくも温かい大慈悲心こそ。

今年も半分過ぎました。健康な時には分からなかった時の流れが、病気になるると切実な感じられます。七き先代住職か「何も知らずに生まれ出て知らぬ間に歳を取り、思わぬ病気で死んでゆく人の一生この道は逃げも隠れもできぬ道(後略)」という歌を作りました。先日乳癌の手術を受けて、手術後しばらくうつろ状態だった人から手紙が届きました。手紙には「感謝」と言う言葉が何度も書かれ、最後は「これからは病気と共に生きていこう」と力強い決心が記されています。そこに至るまでの葛藤と心の転換には、これだけの時間が必要でした。この人以外にも30年以上病気で苦しみながら毎日のように病院通いを繰り返す友人。「誰も私の痛みを分かってくれない。薬の副作用で体はホロホロ、医者なんか信じられない。このまま苦んで死ぬのが辛い」と周囲にいつも不満をぶちまけていました。その彼女が一念発起して一ヶ月の外国旅行に挑戦。帰国後「医者や薬の力だけで病気を治そうとは思わなくなった。死ぬまでこの病気と付き合う覚悟ができました。肝心なのは私の心の持ち方。これまでお世話になった人の「おかげ」が見えてきました」との感想を語ってくれました。自分が地獄だと思っている現実も「地獄は地獄のままを救われていく道」があるのだと気付かされました。7月21日(旦)夜7時半臨時門信徒総会を開き、3年後のご法要に向けての話し合いです。皆林のご出席もろくお願いし、合掌

平成二十五年七月

善正寺坊守拝